

黒潮圏セミナー

水研で担ってきた鯨類の資源生態調査研究 -土佐湾ニタリクジラの話を中心に-

講師：水産総合研究センター国際水産資源研究所

高知大学 大学院 黒潮圏総合科学専攻 客員教授

木白 俊哉

■ 日 時 2013年11月27日(水) 13:00～14:30

■ 場 所 高知大学朝倉キャンパス総合研究棟2F会議室1

■ 問合先 黒潮圏総合科学専攻教務委員会 関田諭子 ☎088-844-8697

概要:

木白氏は、国際水産資源研究所鯨類資源グループ（旧遠洋水産研究所鯨類管理/生態研究室）に所属され、国際捕鯨委員会（IWC）の改訂管理方式対象種および我が国沿岸の小型鯨類漁業対象種の資源解析と管理に関する調査研究を担ってこられました。1994年からは、日本周辺海域に出現する沿岸性のニタリクジラ、特に南西部日本沿岸のものを対象とした資源生態調査研究に携わってこられました。

商業捕鯨時代に蓄積された1) 標識再捕記録の分析、2) 土佐湾等沿岸域における目視調査の実施、3) 写真個体識別法の適用、4) 衛星標識法の開発と5) 人工衛星による移動追跡などを通して、a) 土佐湾南西部沿岸に出現するニタリクジラの分布動態、b) 他海域、特に鹿児島県南西部野間池沖との関係、また、c) 土佐湾における出産率、d) 平均出産間隔、e) 加入量の動向などの推定、f) 人工衛星による個体の移動追跡などを実施されるとともに、これらの結果から、南西部日本沿岸にみられるニタリクジラの系群の由来や回遊経路さらには分布範囲、生態特性などが明らかにされています。一連の成果は、IWC科学委員会における包括的評価作業において大きな役割を果たしてきました。

講演では、木白氏が担当されている小型鯨類（ツチクジラ、コビレゴンドウ、イルカ類）の漁業資源管理に関する調査研究、ミンククジラの商業捕鯨再開に向けた取り組み（小型捕鯨船による沿岸域（釧路沖）鯨類捕獲調査、目視調査船による衛星追跡調査など）についても概要を紹介していただく予定です。

主催：黒潮圏総合科学専攻

DCセミナー指定（博士）（文系・理系）

黒潮圏セミナー指定（修士）（文系・理系）